

第2章

学ぶ意欲を測るアンケート

「学習に関するアンケート」について、その活用法の例を紹介します。

この章で紹介している質問紙「学習に関するアンケート」、及び、集計用のExcelファイルは、栃木県総合教育センターのホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。

[アドレス] <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/leaflet/ichiran.htm#enquete>

1

「学習に関するアンケート」について

(1) アンケート用紙について

第1章-5「学ぶ意欲をどう把握するか」で示したとおり、学ぶ意欲を構成する要素を基に質問項目を設定すれば、学ぶ意欲を把握する質問紙を作成することができます。

栃木県総合教育センターでは、櫻井茂男氏の「児童生徒の自ら学ぶ意欲を測定する項目」の中から、「安心して学べる環境」は4項目、その他の構成要素は2項目ずつ選び、次のようなアンケート用紙（p69 参照）を作成しました。小学校3年生以上を対象と考えています。

「児童生徒向けアンケート用紙」は、児童生徒に配布し、回答してもらうためのもので、「教師向け資料」は、児童生徒向けアンケート用紙の各質問項目と各構成要素の関係を示したものです。

児童生徒用アンケート

学習に関するアンケート		年 組 番			
あなたがどのような気持ちで学習しているのか、正直な気持ちを教えてください。 それぞれ、4つの中からあてはまるものを1つえらび、○をつけてください。		1	2	3	4
		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
No.	質 問 項 目	1つえらんで○をつけてください。			
例	算数と国語では、算数の方が好きです。	1	②	3	4
1	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。	1	2	3	4
2	もつとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。	1	2	3	4
3	毎日、明るく元気に生活している。	1	2	3	4
4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。	1	2	3	4

教師向け資料

学習に関するアンケートの質問項目は、次の要素から作成しました。		教師向け資料
<ul style="list-style-type: none"> ○欲求・動機レベル [知的な好奇心、有能さへの欲求、向社会的欲求] ○学習行動レベル [情報収集、自発学習、挑戦行動、深い思考、独立達成、協同学習] ○認知・感情レベル [面白さと楽しさ、有能感、充実感] ○安心して学べる環境 		
要素	No.	質 問 項 目
安心して学べる環境	1	授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる。
深い思考	2	もつとうまい解き方や別の考え方はないかと考える。
充実感	3	毎日、明るく元気に生活している。
知的な好奇心	4	よくわからないことは、わかるまで調べたい。

(2) アンケートの実施について

実施方法

- ・児童生徒には、学習に関して、日頃考えていることを答えるように伝える。
- ・実施時間は、説明も含めて15分程度とする。
- ・出席番号を記入させる。(個に応じた指導に役立てるために)
- ・1から4のうちあてはまるものを1つだけ選び、○を付けさせる。
(複数選択した場合、その項目のみ無効となる。)
- ・子ども自身に質問項目を読ませ、自分のペースで回答させる。
(学級の実態に応じて、教師が質問項目を読み上げることも考えられる。)
- ・全員が終了したら、アンケート用紙を集める。


活用の手順(例)

- ① 年度初めにアンケートを実施し集計する。
 - ② 児童生徒の学ぶ意欲に関する現状分析を行う。
(分析の視点は、後述の「2『学習に関するアンケート』のデータ分析と活用」参照)
 - ③ 分析結果や学校課題等を基に、授業や学級経営等の工夫・改善を行う。
 - ④ 年度末に再びアンケートを実施し集計する。
 - ⑤ 授業や学級経営等の工夫・改善の効果の検証をする。
- *必要に応じて、年度途中にもアンケートを実施し、児童生徒の変容の確認をするとよい。

アンケート結果から、各プロセスと各構成要素の平均値が求められるため、どのように働きかければよいか具体的に分かります。

「学習に関するアンケート」と集計用 Excel ファイルは、下に示したように、栃木県総合教育センターのホームページからダウンロードできますので、ぜひご活用ください。


学ぶ意欲を測定する質問紙調査「学習に関するアンケート」



(1)「学習に関するアンケート」用紙
児童生徒の学ぶ意欲を測定することができます。
小学校第3学年以上を想定して作成しました。

[学習に関するアンケートの例](#) PDF

質問紙はここを右クリックして保存する。



(2)「学習に関するアンケート」入力フォーム
実施したアンケートのデータを入力していただくと、学校、学年、学級、個人別のグラフが表示され、指導の参考になります。ダウンロードしてご活用ください。

[「学習に関するアンケート」入力フォーム.zip](#) ZIP (マクロ機能付きエクセルファイル)
 ↑ 様式を右クリックして、対象(またはリンク先)をファイルに保存してください。
 ZIPファイルを解凍するとエクセルファイル(マクロ機能付き)が入っています。

【出力の例】

[学校、学級グラフ例.pdf](#) PDF
[個人データ例.pdf](#) PDF
[質問ごとのグラフ例.pdf](#) PDF

集計用 Excel ファイルはここを右クリックして保存する。

2

「学習に関するアンケート」の分析と活用

集計用 Excel ファイルは、各設問の回答について、以下のように数値を対応させて、平均値の計算やグラフの表示などができるようになっています。

回答	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
得点	4点	3点	2点	1点

分析は、学年や学級あるいは児童生徒一人一人の数値の平均値について、その大きさや、学年全体と学級全体の平均値との関係に着目します。また、「欲求・動機」「学習行動」「認知・感情」の各プロセスの要素の平均値のグラフ（レーダーチャート）のバランスから分析する方法もあります。

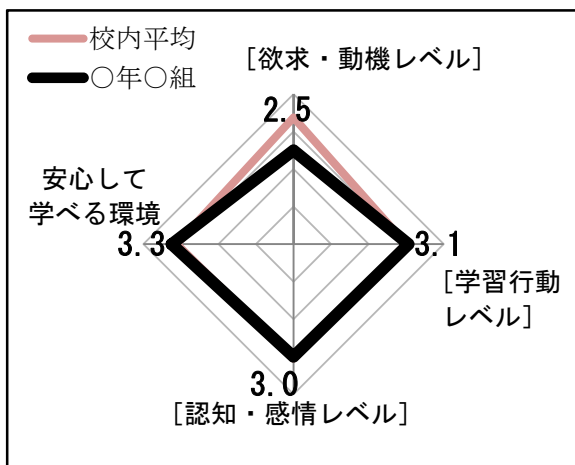
アンケートを2回行った場合には、その平均値の変化から、児童生徒の学ぶ意欲の変容を分析する必要があるでしょう。

アンケートや学級の様子を観察及び児童生徒との面談を通して、学年や学級あるいは児童生徒一人一人の意欲の実態を把握し、数値の低い要素に対して、授業や様々な教育活動等で意図的に働きかけることが有効です。

以下に、データ分析の例を示します。

【例1】学級と校内平均の比較の分析

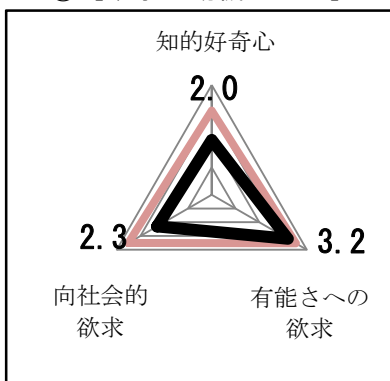
① [安心して学べる環境と3つのプロセス]



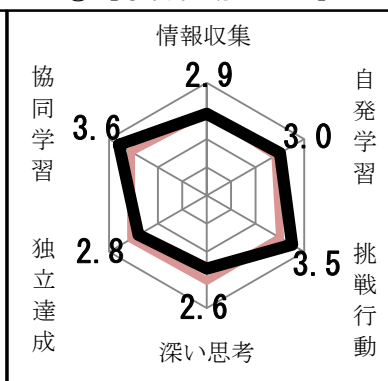
〔レーダーチャートの見方〕

- 平均値が表示される。満点は4点。
- 4つのレーダーチャートが表示される。
- ①は、安心して学べる環境と各プロセスの平均値を示している。
- ②～④はそれぞれのプロセスの構成要素の平均値を示している。

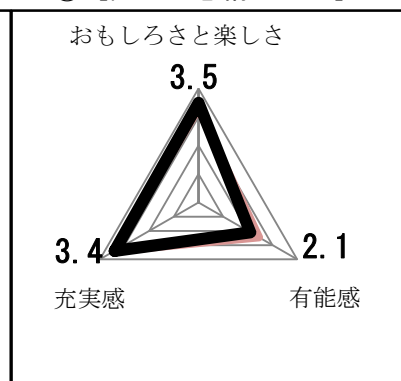
② [欲求・動機レベル]



③ [学習行動レベル]



④ [認知・感情レベル]



【分析の例】

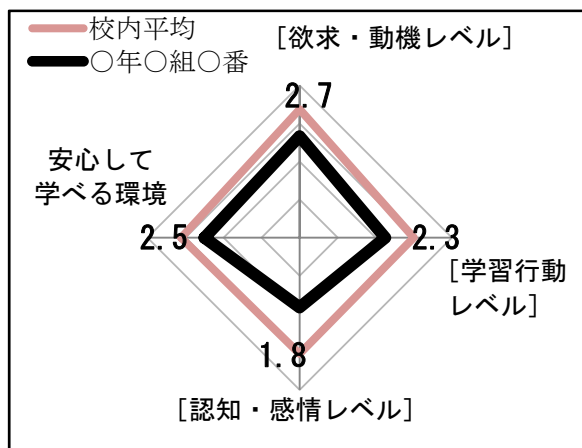
- 「欲求・動機レベル」の平均値が、校内平均と比較して低いことが見てとれる。
- 「欲求・動機レベル」の中でも「知的好奇心」や「向社会的欲求」が低い。
- 「学習行動レベル」の「協同学習」や「挑戦行動」は校内平均より高い。

【解決策の例】

- 学級の様子を観察したり、児童生徒と面談を行ったりするなどして、どのような働きかけが有効なのかを検討する必要がある。

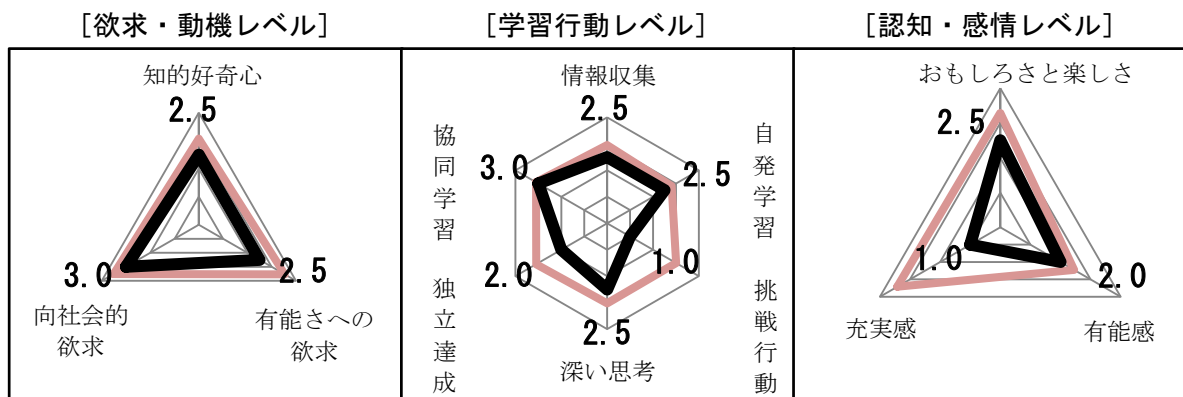
【例2】個人と校内平均の比較の分析

[安心して学べる環境と3つのプロセス]



特に配慮を要する児童生徒

- どの構成要素の数値も低い児童生徒
- 構成要素による差が大きい児童生徒
- 教師の観察とアンケートの結果の違いが大きい児童生徒



【分析の例】

- どのプロセスの平均値も校内平均より低いことが見てとれる。
- 「学習行動レベル」の「挑戦行動」と「認知・感情レベル」の「充実感」に対し、否定的な回答をしている。

【解決策の例】

- 易しい課題から取り組ませ、一つ一つスモールステップで解決させるように支援して、充実感をもたせる。

このような分析に基づいて働きかけを工夫した場合、それが児童生徒に届いたかどうかを確認するために、働きかけた後のアンケート結果をもとに、面接を行うとよいでしょう。その際に、「意欲を高める出来事はありませんでしたか」と尋ねるなどして、児童生徒に回想させるような質問をすると、働きかけの効果が把握できるでしょう。

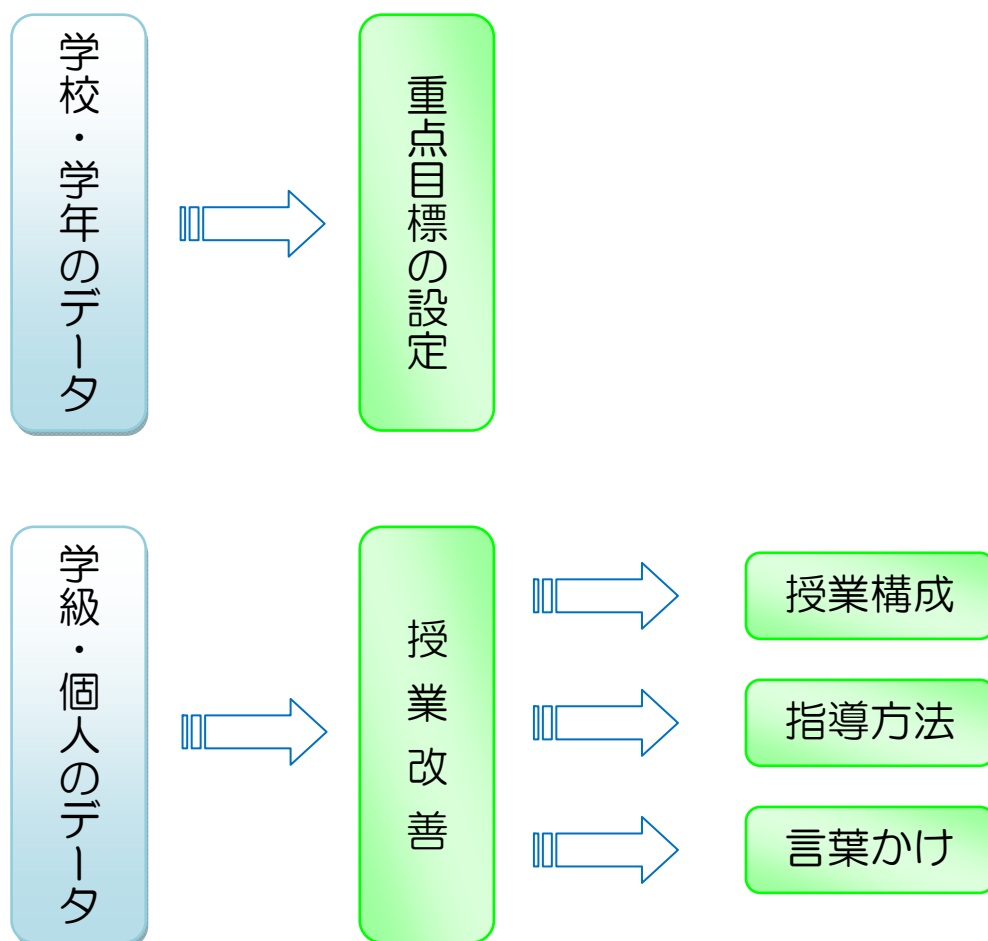
コラム

アンケートの結果には、授業改善のヒントが隠されていると言えます。学級や個人のデータには、授業の構成や指導の方法、言葉かけなどの傾向が影響していると考えられます。そこで、自身の授業の特徴を振り返ることが必要です。

例えば、「挑戦行動」が低いというデータが得られたとき、「基礎的な問題を全員が解決できるように指導しているが、応用問題に取り組むような働きかけが不足しているのではないか」という分析をすることによって、時には応用問題を出したり、習熟度に応じた問題を用意したりするなどの授業改善へとつなげることができます。

小学校では、学級担任が多くの教科を担当しているため、学級に応じた授業づくりの工夫がしやすいと言えますが、教科担任制の中学校、高等学校では、数名の教師が働きかけてもあまり効果は期待できません。校内研修などで、アンケート結果を学校全体で分析して共通理解を図ることで、効果的に働きかけることができます。

さらに、保護者会等で学年や学級の結果を示したり、保護者との面談で個人の結果を伝えたりして、家庭との連携を図ることも考えられます。



3

「学習に関するアンケート」の結果

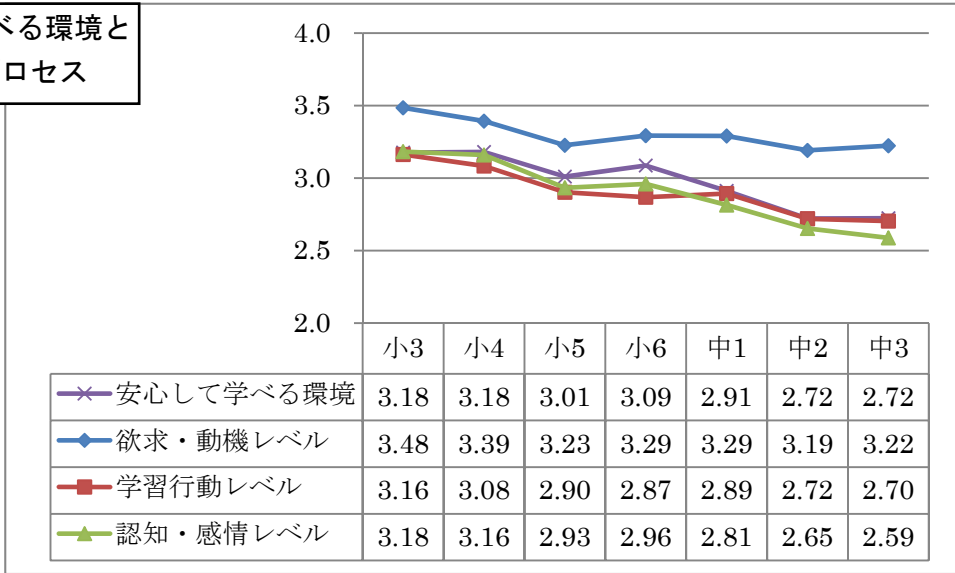
「学習に関するアンケート」について、県内の小中学校で実施したものを学年別に集計し、分析しました。各学校で調査した結果と比較するなどしてください。

- (1) 実施対象校
県内の小学校5校、中学校7校
- (2) 実施期日
平成22年6月～7月の適当な日時を学校が定めて実施
- (3) 有効回答者数

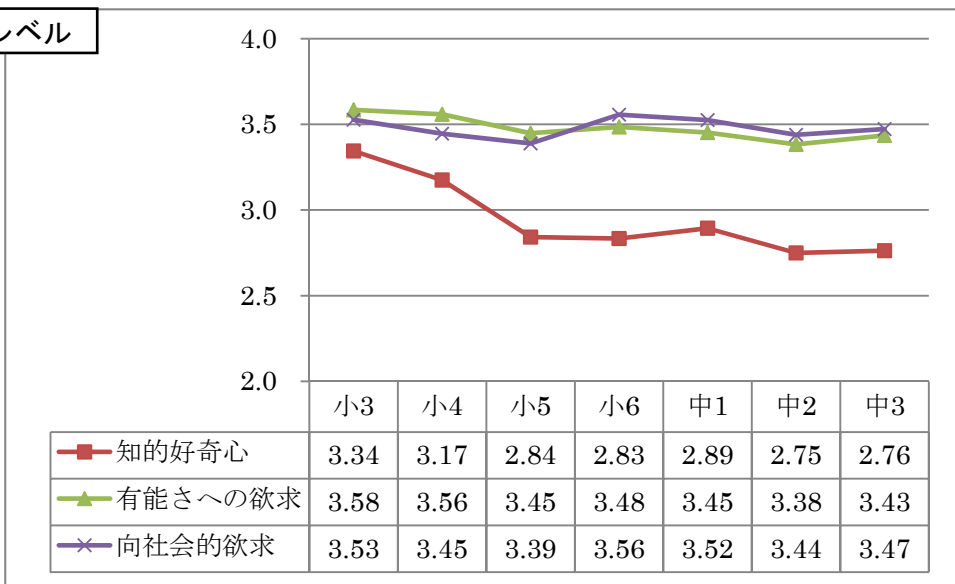
学年	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3
回答者数	201	198	223	210	523	533	527

(4) 各プロセス、およびプロセスごとの構成要素の平均値の推移

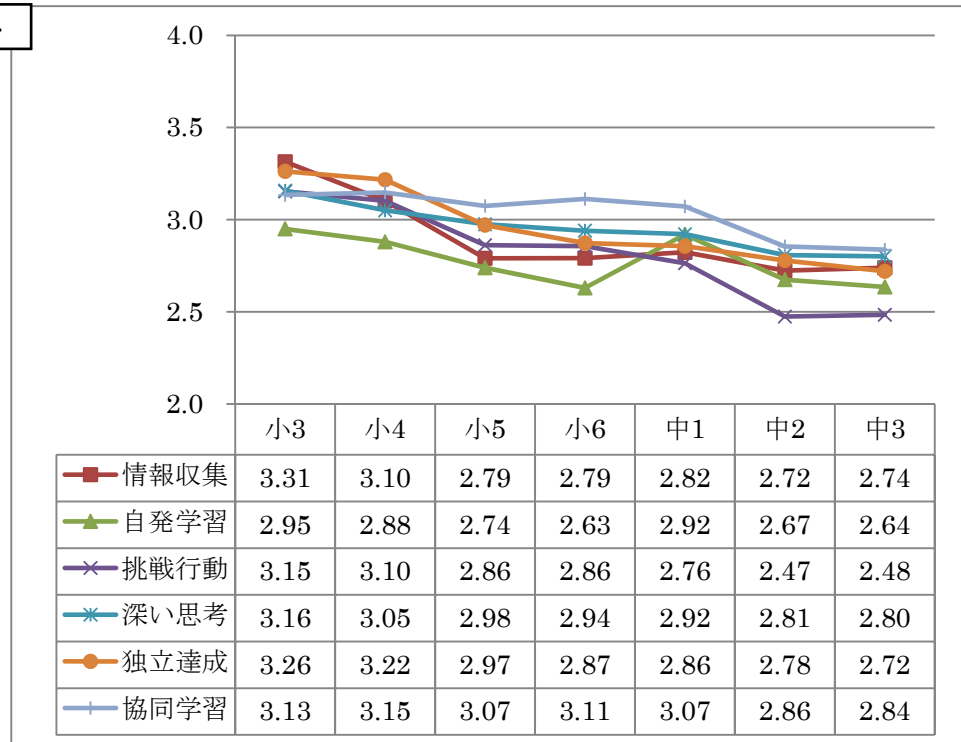
安心して学べる環境と
3つのプロセス



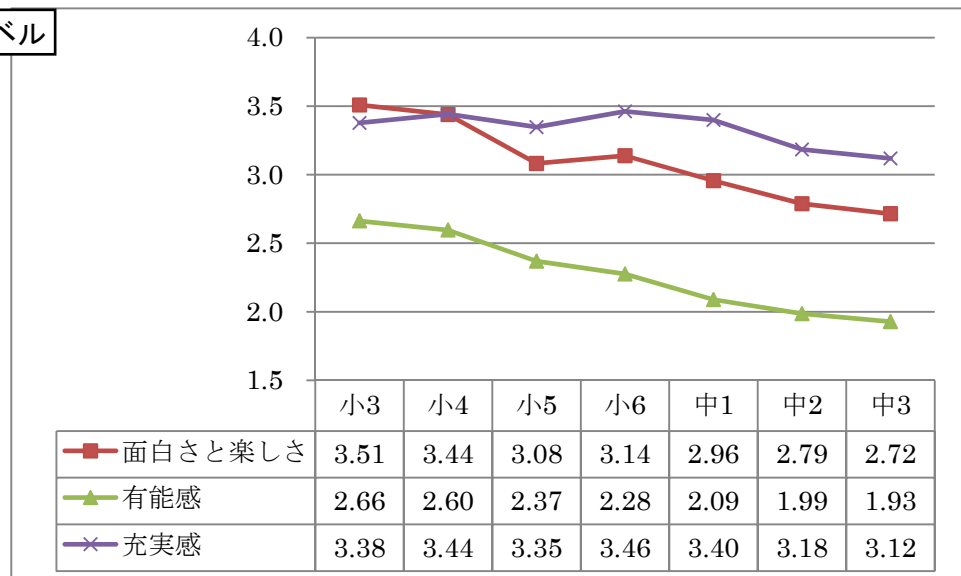
欲求・動機レベル



学習行動レベル



認知・感情レベル



(5) 集計結果の特徴

- 発達にしたがって、ほとんどの構成要素の平均値が減少していく傾向にある。
- 「有能さへの欲求」「向社会的欲求」は全学年とも高い。
- 小学4年から5年にかけての減少幅が大きい項目は、「知的好奇心」「情報収集」「おもしろさと楽しさ」である。
- 中学2、3年の「挑戦行動」の平均値が低い。
- 「有能感」はどの学年も、平均値が最も低い。